

室蘭・住まいのウチイケ

省エネ住宅 日本一

ハウス・オブ・エナジー大賞に ザ・イヤー

「ハウス」が「省エネ日本一」に選ばれた。

注文住宅・リフォームの住まいのウチイケ（室蘭市八丁平、内池秀光代表取締役社長）が、省エネルギー性能の優れた住宅に贈られる「ハウス・オブ・エナジー・イン・エナジー2018」の大賞を受賞した。同社の家造りのノウハウが詰まった標準仕様の「エコ

ハウス」が「省エネ日本一」に選ばれた。同賞は一般財団法人日本地域開発センターが、住宅の建物外皮や設備の省エネ性能、快適性、普及率などを総合的に評価し、省エネに優れた住宅シリーズを表彰する制度。18年度は全国ビルダーから200件を

超す応募があった。

同社は14年から応募し、これまで大賞に次ぐ特別優秀賞が最高。5度目の正直となった今回は、ダブル断熱やトリプルサッシなど高気密・高断熱建材により、年間光熱費を一般住宅の半分以下に抑えた標準仕様のエコハウスで悲願の大賞を受賞。さらに優秀賞、特別優秀企業賞も同時受賞し、5年連続で3部門受賞も達成した。

「性能はトップクラスだが、建築実績は大手ハウスメーカーに分があった」と話す内池社長。同社は目では測れない住宅性能が分かるよう、住宅性能表示の導入や燃費計算など性能の「見える化」を早くから実践。一棟一棟、地道に建築数を増



省エネ住宅日本一に認められ「やってきたこと」間違いはなかった」と喜ぶ内池社長

やし年間40棟まで伸ばした。

家造りへの真摯な取り組みが実を結び、内池社長は「当社が建てる家の全てが日本一に認められた。選んでいただいたお客さまに感謝したい」と喜びをかみしめている。

4月からはエコハウスをはじめ同社の住宅規格の全国展開を図る初のフラッシュ・アウトリーチ「HOME-UP CHIEF」にも乗り出す。「日本一に選ばれた建築ノウハウを提供し、UC HIIKEブランドを全国に広めたい」と意気込んでいる。（菅原啓）